



Infor LN 製造 製品構成ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	tipcfug (U9856)
リリース	10.5 (10.5)
発行日	2017 年 12 月 21 日

目次

文書情報

第1章 製品構成の概要.....	7
製品バリエントの構成方法および製品構造の生成方法.....	7
プロジェクトなしの製品構成.....	13
各種シナリオ用のパラメータの構成.....	13
構成済品目の部品表および工順.....	14
CPQ でのカスタマイズ部品表および工順の生成.....	14
PCM でのカスタマイズ品目コードの生成.....	14
製品バリエント構造の生成.....	15
製品バリエントの消去.....	16
「製品バリエント」-「購買構成可能品目」.....	16
バリエントの比較.....	17
バリエント番号とオプションリスト ID.....	17
製品バリエント購買価格構造.....	17
第2章 PCF.....	19
製品構成(PCF).....	19
パフォーマンスについての注意.....	19
コンフィギュレータの概要.....	19
製品コンフィギュレータが役立つ理由.....	20
製品構成を設定するには.....	20
製品コンフィギュレータを使用するには.....	20
(プロジェクト) 構造を生成するには.....	21
第3章 CPQ コンフィギュレータ.....	23
CPQ コンフィギュレータの設定.....	23
付録A 用語集.....	25

索引

文書情報

この文書では、LNで複合品目を構成するために利用できるプロセスを説明します。PCMコンフィギュレータおよび製品構成(PCF) (ページ 19) の設定と処理に関する情報を示します。

本書の使い方

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡くださいますようお願いいたします。

製品バリエーションの構成方法および製品構造の生成方法

製品バリエーションの構成と、製品バリエーション構造の生成の手順は、個別のステップ数で構成されます。

製品バリエーション構成処理は、その処理が開始されたモジュールに応じて異なります。

- 製造の製品構成(PCF) (ページ 19)
- オーダ管理の販売管理
- 製造のプロジェクト管理 (PCS)
- プロジェクトの予算編成
- プロジェクトのプロジェクト計画と所要量 (PSS)

製品構成から製品バリエーションを開始する場合は、まず製品バリエーションコードを定義してから構成処理を開始する必要があります。製品バリエーションの参照タイプは [標準バリエーション] です。

その他のモジュールでは、製品バリエーションコードが生成されるため、すぐに構成を開始できます。製品バリエーションの参照タイプは、[販売見積]、[販売オーダー]、[予算]、[プロジェクト (PCS)]、[標準バリエーション]、または [プロジェクト] です。

構成処理

構成処理セクションは、次のサブセクションから構成されています。

- 製品バリエーションを構成するには
- オプション値を選択するには
- オプション値を有効化するには
- オプションセットを有効化するには
- 製品バリエーションを有効化するには

製品バリエーションを構成するには

1. 製品バリエーション (tipcf5501m000) セッションを開き、詳細セッションを開始します。
2. 製品バリエーションを構成する一般品目を指定します。

3. 製品バリエント (tipcf5501m000) 詳細セッションから構成処理を開始します。
4. 一般構成構造が読み込まれ、製品構造の上部のオプションセットが検索されます。
5. オプションセットが見つかった場合、そのセットが製品コンフィギュレータ (tipcf5120m000) セッションで表示されます：ステップ 6 へ進みます。オプションセットが見つからない場合、製品コンフィギュレータ (tipcf5120m000) セッションでは何も表示されません：ステップ 10 へ進みます。
6. 一般品目の最初のオプションセットが読み込まれます。サブセクション「オプションセットを読み込むには」を参照してください。
7. 製品特徴の [オプション] フィールドをクリックします。[...] をダブルクリックすると、有効な特徴が表示されます。これらのオプションは、製品特徴および構成可能品目別オプション (tipcf1110m000) セッションに表示されます。希望のオプション値を選択します。サブセクション「オプション値を選択するには」を参照してください。
8. 選択されたオプション値が有効化されます。サブセクション「オプション値を有効化するには」を参照してください。
9. 新規特徴ごとにステップ 7 および 8 を繰り返します。製品特徴ごとにオプションを選択すると、オプションセット全体が有効化されます。サブセクション「オプションセットを有効化するには」を参照してください。
10. [次のグループ] ボタンをクリックすると、その品目に対して次の (下位レベルの) オプションセットを検索するよう求められます。
11. 次のオプションセットが検索され、一般部品表の構成要素に対して [確認] 制約セッションが実行されます。
12. このレベルで別のオプションセットが使用可能かどうかチェックされます。Yes ならステップ 5 へ進み、No ならステップ 13 へ進みます。
13. 製品バリエントが有効化されます。サブセクション「製品バリエントを有効化するには」を参照してください。

オプションセットを読み込むには

1. 一般品目の製品特徴が読み込まれ、構造の上部で一般品目の最初の製品特徴 (最初のオプションセット) が検索されます。
2. 製品制約が製品特徴にリンクされているかどうかチェックされます。Yes ならステップ 3 へ進み、No ならステップ 7 へ進みます。
3. 製品制約が読み込まれ、[入力前] 制約セッションが実行されます。
4. オプション値の入力または表示が許可されているかどうかチェックされます。Yes ならステップ 5 へ進み、No ならステップ 6 へ進みます。
5. ステップ 2～4 を実行する必要がある追加特徴が存在するかどうかチェックされます。Yes ならステップ 8 へ進み、No ならステップ 7 へ進みます。
6. オプション値の入力が許可されていない場合は、[入力前] 制約セッションに指定された値でオプションが初期化され、ステップ 8 から手順が続行されます。どのオプションに関しても入力と表示が許可されていない場合は、オプションフィールドが無効化されます。そのようなオプションセットを不可視のオプションセットと呼びます。不可視のオプションセットは、任意の製品特徴に関してオプション値の入力または表示が許可されていないオプションセットです。これらの不可視のオプションセットは製品コンフィギュレータによって自動的に初期化され、続いて妥当性を検証されます。
7. オプション値を選択します。オプション値の詳細については、サブセクション「オプション値を選択するには」で説明します。

8. 最初のオプションセットのうちの次の製品特徴が検索されます。

オプション値を選択するには

1. オプション値を選択する製品特徴の [オプション] フィールドをダブルクリックします。
2. その製品特徴に制約がリンクされているかどうかチェックされます。Yes ならステップ 3 へ進み、No ならステップ 5 へ進みます。
3. 製品制約が読み込まれ、[入力前] 制約セクションが実行されます。
4. オプション値の入力または表示が許可されているかどうかチェックされます。Yes ならステップ 5 へ進み、No ならステップ 6 へ進みます。
5. 許可されているオプションにズームします。製品特徴および構成可能品目別オプション (tipcf1110m000) セッションで [...] をクリックすると、有効な特徴がすべて表示されます。許可されているオプションのリストを作るために、許可されているオプションごとに該当する制約の [確認] 制約セクションが実行されます。ステップ 7 へ進みます。
6. オプション値の入力が許可されていない場合は、[入力前] 制約セクションに指定された値でオプションが初期化されます。ステップ 9 から手順を続行します。
7. オプション値を選択します。
8. 選択されたオプション値が有効化されます。サブセクション「オプション値を有効化するには」を参照してください。
9. オプションを選択する必要がある製品特徴がほかにも存在するかどうかをチェックします。Yes ならステップ 1 へ進み、No ならステップ 10 へ進みます。
10. オプションセットが有効化されます。サブセクション「オプションセットを有効化するには」を参照してください。

オプション値を有効化するには

オプション値が有効化されるのは次の場合のみです。

- 製品特徴用オプション値の入力が許可されている場合
 - オプション値が空でない場合
1. オプションが選択可能 (一連のオプション値のなかからいずれかを選択可能) か、それともユーザ自身が値を入力する必要があるかがチェックされます。選択可能ならステップ 2 へ進み、選択可能でないならステップ 3 へ進みます。
 2. 製品特徴に選択オプションが用意されている場合は、選択されたオプション値がその特徴に割り当てられたセットの一部であるかどうかチェックされます。この後、選択日付がオプションの有効期間内にあるかどうかチェックされます。
 3. 製品特徴に選択オプションが用意されていない場合は、入力されたオプション値がオプション値ドメイン内にあるかどうかチェックされます。
 4. 製品制約が読み込まれ、[確認] 制約セクションが実行されます。これにより、選択されたオプション値が許可されているかどうか判定されます。
 5. 選択されたオプション値が許可されているかどうかチェックされます。Yes ならステップ 6 へ進み、No ならステップ 7 へ進みます。
 6. 次の製品特徴の [オプション] フィールドをダブルクリックします。
 7. 許可されていない値を入力すると、関連する制約式を呼び出すことができます。

8. 製品特徴および構成可能品目別オプション (tipcf1110m000) セッションでレコードを選択して[テキスト]をクリックすることにより、製品バリエーションオプションに関連する拡張記述または説明テキストを記録できます。

オプションセットを有効化するには

オプションセットの有効化は、製品バリエーションオプションセットの製品特徴ごとに行われます。このステップは別のオプションセットが検索される前、および構成処理終了前に実行されます。

1. オプションセットうちの最初の製品特徴が読み込まれます。
2. 製品制約が読み込まれ、[入力前] 制約セクションが実行されます。
3. オプション値の入力または表示が許可されているかどうかチェックされます。Yes ならステップ 4 へ進み、No ならステップ 5 へ進みます。
4. オプションが選択可能かどうかチェックされます。Yes ならステップ 7 へ進み、No ならステップ 8 へ進みます。
5. オプション値の入力が許可されていない場合は、[入力前] 制約セクションに指定された値でオプションが初期化されます。
6. [パラメータ代替] 制約セクションが実行されます。この制約セクションでは、オプションに固定値を指定することができます。この値は公式を使用して計算できる場合とできない場合があります。
7. 製品特徴に選択オプションが用意されている場合は、選択されたオプション値が製品特徴に割り当てられたセットの一部であるかどうかチェックされます。その後、選択日付がオプションの有効期間内にあるかどうかチェックされます。
8. 製品特徴に選択オプションが用意されていない場合は、選択されたオプション値がオプション値ドメイン内にあるかどうかチェックされます。
9. 製品制約が読み込まれ、[確認] 制約セクションが実行されます。これにより、選択されたオプション値が許可されているかどうか判定されます。
10. 選択されたオプション値が許可されているかどうかチェックされます。Yes ならステップ 11 へ進み、No ならステップ 12 へ進みます。
11. オプションセットの次の製品特徴が読み込まれます。
12. 選択したオプション値が許可されていないものであった場合は、修正することができます。

製品バリエーションを有効化するには

製品バリエーションは、各オプションセットの製品特徴ごとに、許可されているオプション値を選択した場合にだけ有効化されます。

注意

製品バリエーションの有効化 (tipcf5200m000) セッションで一連の製品バリエーションを有効化できます。

生成処理

製品バリエーションの構成後に製品バリエーションの生成を続行するには、次のセッションを使用します。

- 製品バリエーション (プロジェクト) 構造の生成 (tipcs2220m000) セッション
- 販売見積 (予算 PCS) 構造の生成 (tdsls1201m100) セッション

- 販売オーダ (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000) セッション

生成処理については、次のサブセクションで説明します。

- 製品バリエーション構造を生成するには
- 品目データを生成するには
- バリエーション工順を生成するには
- 購買/販売価格を生成するには

製品バリエーション構造を生成するには

1. 製品バリエーション構造を生成する対象の製品バリエーションを選択します。
2. [生成] をクリックして、処理を開始します。
3. 一般製品構造が読み込まれ、構造の上部の最初の品目が検索されます。
4. 部品表構成要素にリンクされた製品制約が読み取られ、[確認] 制約セクションが実行されます。
5. 品目が一般製品構造の一部となっているかどうかを確認されます。Yes ならステップ 6 へ進み、No ならステップ 7 へ進みます。
6. 品目の品目タイプが読み込まれます。タイプが「一般」ならステップ 8 へ進み、別の品目タイプならステップ 7 へ進みます。
7. このレベルにある次の品目が検索されます。
8. 製品バリエーションが検索され、選択された特徴とオプションが読み取られます。
9. 品目がバリエーション構造に包含されます。
10. 選択された特徴およびオプションに基づいて、製品バリエーション構造が生成されます。製品バリエーション品目データ、購買/販売価格、部品表および工順が連続的に生成されます。詳細については、以降のサブセクションを参照してください。
11. 品目が一般購買品目か、それとも一般製造品目かがチェックされます。「製造」品目ならステップ 7 へ進み、「購買」品目ならステップ 12 へ進みます。
12. 次下位レベルにある次の品目の検索が続行されます。ステップ 4 から手順が再開されます。
13. 品目データ、購買データ、販売データ、部品表および製品バリエーションの工順が生成されます。

品目データを生成するには

1. 一般品目の最初のラインが読み込まれます。
 2. 製品制約が読み込まれ、[確認] 制約セクションが実行されます。
 3. 品目データ要素をバリエーション構造に包含することができるかどうかを確認されます。Yes ならステップ 4 へ進み、No ならステップ 5 へ進みます。
 4. データ要素が製品バリエーション構造に包含されます。
 5. 品目データの次のラインが読み込まれます。
1. 一般部品表の最初の構成要素が読み込まれます。
 2. 製品制約が読み込まれ、[確認] 制約セクションが実行されます。
 3. 構成要素がバリエーション構造に包含されているかどうかを確認されます。Yes ならステップ 4 へ進み、No ならステップ 5 へ進みます。

4. [パラメータ代替] 制約セクションが実行されます。この制約セクションの公式を使用して、部品表構成要素の長さ、幅、単位数、および正味数量が計算されます。
5. 部品表構成要素が製品バリエーション構造に包含されます。
6. 次の構成要素が読み込まれます。

バリエーション工順を生成するには

1. バリエーション工順の最初の作業が読み込まれます。
2. 製品制約が読み込まれ、[確認] 制約セクションが実行されます。
3. 作業をバリエーション構造に包含することができるかどうかを確認されます。Yes ならステップ 4 へ進み、No ならステップ 5 へ進みます。
4. [パラメータ代替] 制約セクションが実行されます。この制約セクションの公式を使用して、作業の段取時間および実行時間が計算されます。
5. 作業が製品バリエーション構造に包含されます。
6. 次の作業が読み込まれます。

購買/販売価格を生成するには

1. 一般価格リストの最初のラインが読み込まれます。
2. 製品制約が読み込まれ、[確認] 制約セクションが実行されます。
3. 価格リストラインを製品バリエーションの価格構造に包含することができるかどうかを確認されます。Yes ならステップ 4 へ進み、No ならステップ 5 へ進みます。
4. [パラメータ代替] 制約セクションが実行されます。この制約セクションの公式を使用して、購買/販売価格または付加費用/値引率が計算されます。
5. 価格リストラインが製品バリエーションの購買/販売価格構造に包含されます。
6. 次の価格リストラインが読み込まれます。

購買構成可能品目を含む製品バリエーションを構成するには

購買構成可能品目を含む製品バリエーションを構成できます。構成可能品目を使用すると、構成可能な購買半組立品を含む品目構造を作成できます。購買半組立品は、その他の組立部品などの組立ラインで在庫されます。

組立管理モジュールでの購買構成可能品目の調達に関する詳細については、以下を参照してください。

- 「組立管理」-「マスタデータの設定」での構成品目の調達
- 「組立管理」-「部品表の設定」での構成品目の調達
- 「製品バリエーション」-「購買構成可能品目」(ページ 16)

プロジェクトなしの製品構成

各種シナリオ用のパラメータの構成

品目は、[製品コンフィギュレータ (PCF)] または CPQ コンフィギュレータ で構成できます。導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションの次の予想シナリオにおける製品構成パラメータと PCM コンフィギュレータパラメータの組合せを選択できます。

パラメータ設定	シナリオ	記述
■ [製品コンフィギュレータ (PCF)] がオン ■ [CPQ コンフィギュレータ統合] がオン	1	どちらのパラメータも PCF がすでに使用されている場合、[製品コンフィギュレータ (PCF)] を CPQ コンフィギュレータ用に変換したい場合、このシナリオが推奨されます。 どちらのパラメータも <u>CPQ コンフィギュレータ</u> の両方を使用して品目をカスタマイズできます。品目が CPQ を使用して構成されている場合、部品表と工順の構成には、PCF または CPQ を使用できません。
[CPQ コンフィギュレータ統合] がオン	2	<u>CPQ コンフィギュレータ</u> が、品目、部品表 (BOM)、および工順の構成を処理します。 このシナリオでは、[製品コンフィギュレータ (PCF)] 機能が無効になります。
[製品コンフィギュレータ (PCF)] のみがオン	3	PCF が、品目、部品表、および工順の構成を処理します。 このシナリオでは、<u>CPQ コンフィギュレータ</u> を統合する必要がありません。CPQ 関連のすべての機能が無効になり、フィールド/チェックボックスが非表示になります。
どちらのパラメータもオンではない	4	構成エンジンは実装されません。

構成済品目の部品表および工順

供給ソースに応じて、さまざまな方法を使用して、構成済品目の部品表 (BOM) および工順をメンテナンスできます。

- 供給ソースが [ジョブショップ] の場合の構成済品目の一般部品表および工順
一般部品表および工順は、CPQ コンフィギュレータで必要とされません。この状況では、部品表および工順はいずれも、LN で生成されます。
カスタマイズ部品表および工順を CPQ コンフィギュレータで生成する場合、部品表は、標準製造構成要素または購買構成要素のレベルに定義されます。標準製造構成要素および購買構成要素に関連する部品表は常に LN でメンテナンスされます。
これと同じことが、CPQ 構成済品目の工順にも当てはまります。
- 供給ソースが [組立] の場合の構成済品目の一般部品表および工順
一般部品表は必要とされますが、一般工順は使用されません。

注意

(一般) 組立部品表と関連情報なしで品目の構成が CPQ コンフィギュレータで実行された場合、データは LN でメンテナンスされます。

CPQ でのカスタマイズ部品表および工順の生成

製品バリエーション (プロジェクト) 構造の生成 (tipcs2220m000) および販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000) セッションを CPQ コンフィギュレータと組み合わせて使用した場合、CPQ からのバリエーション構造の取得をトリガでき、CPQ から取得したバリエーション構造に基づき、カスタム品目コードおよびプロジェクト構造の再生成をトリガできます。

注意

バリエーションが PCF で生成された場合、有効性確認が、製品バリエーションの有効化 (tipcf5200m000) セッションを使用して実行されます。

バリエーションが CPQ コンフィギュレータで生成された場合、CPQ コンフィギュレータの状況が、結果として LN での状況の有効性確認になります。

PCM でのカスタマイズ品目コードの生成

PCF を使用する場合、カスタム品目コードが、一般品目 - データ生成の設定 (tipcf3101m000) セッションで生成されます。これは、CPQ コンフィギュレータで構成された品目については不可能です。

注意

すべての品目が CPQ コンフィギュレータで構成された場合、一般品目 - データ生成の設定 (tipcf3101m000) は無効になります。

CPQ コンフィギュレータでは、構成 (品目、部品表、および工順) 固有の文書、イメージおよび (データ) ファイル (pdf、docx、CAD、SVC、イメージ、テストなど) の編集が可能です。これらの文書は、その後の処理のため LN で使用できます。

両方のコンフィギュレータが有効な場合、CPQ コンフィギュレータから LN へのデータのインポート中に重複する構成が登録されると、エラーメッセージが表示されます。

製品バリエーション構造の生成

選択した構成品目の製品バリエーションの構造は、品目と、その品目の作成に使用される設計モジュール間の関係を指定することで定義されます。一般サブ品目にもさらにサブ品目/設計モジュールを関係付けることができます。設計モジュールのサブレベルは平準化された組立部品 (組立部品表と作業 (tiapl2520m000) セッションで定義) で指定されます。

次の場合に製品バリエーション構造が生成されます。

- 製品バリエーションが、主品目と一般サブ品目間の関係に基づき指定および保存された場合
- 現在のセッションを実行すると、主品目/一般品目と設計モジュール間の関係に基づき、製品バリエーション構造が作成されます。

製品バリエーション構造の生成 (tiapl3210m000) で製品バリエーション構造が作成されるのは、次の条件が満たされている場合のみです。

- 現在の会社が、組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションでマスタ会社として定義されている
- 組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションで、[外部製品バリエーション構造] チェックボックスがオフである
- 製品バリエーションの [計画オフライン日] (製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションで指定) が、組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションで指定されているタイムフェンス内である
- 製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションで、製品バリエーションの [製品バリエーション構造生成済] チェックボックスがオフである
- 製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションの [削除予定] チェックボックスがオフである
- 製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションの [組立ライン] フィールドで、[組立ライン構造状況] が [実現] に設定されている。[組立ライン構造状況] は組立ライン (tiapl1530m000) セッションに表示されます。

設計モジュールと部品表 (BOM) の関係が、品目のテンプレート (一般部品表 (tiapl2510m000) セッションで指定) からコピーされます。一般部品表から取得される情報が、製品バリエーションの有効化コード、発効日および失効日に基づいて選択されます。日付範囲は、[製品構成日] (製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションの詳細で指定) と照合して評価されます。

製品バリエーション構造が生成されると、完了レポートが作成され、製品バリエーションの [製品バリエーション構造生成済] チェックボックス (製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションの詳細で指定) がオンになります。

構成可能品目に対して製品バリエーション構造も生成できます。構成可能品目を使用すると、構成可能な購買半組立品を含む品目構造を作成できます。

組立管理での購買構成可能品目の調達に関する詳細については、次を参照してください。

- 「組立管理」-「マスタデータの設定」での構成品目の調達
- 「組立管理」-「部品表の設定」での構成品目の調達
- 「製品バリエーション」-「購買構成可能品目」(ページ 16)

一般品目は、契約成果物を使用して構成できます。構成の結果として生成される製品バリエーションは、再使用可能になるように契約成果物に登録されます。

契約成果物にリンクされた一般品目は、成果物の状況が [有効] に設定される前にカスタマイズ品目へと修正できます。カスタマイズ品目を構成するには、[カスタマイズ] が [Yes] であり、[PCS 使用] が [No] に設定されている必要があります。

[プロジェクトペグの継承] および [必須プロジェクトペグ] チェックボックスは、次の場合に品目 (tcibd0501m000) セッションで一般品目について使用できます。

- [デフォルト供給ソース] が [ジョブショップ] である
- [カスタマイズ] が [Yes] であり、[PCS 使用] が [No] に設定されている

注意

PCS プロジェクトを含むカスタマイズ品目はサポートされていません。

製品バリエーション構造は、次のセッションでも生成されます。

- 組立部品所要の計算 (tiapl2221m000)
- 組立オーダの更新および凍結 (tiapl3203m000)

製品バリエーションの消去

次の条件が満たされている場合に限り、製品バリエーションが削除されます。

- 現在の会社が、組立計画パラメータ (tiapl0500m000) セッションで マスタ会社 として定義されている
- 製品バリエーションの [削除予定] チェックボックスがオンである (製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションの詳細に表示)
- 対応する販売オーダに対する参照が存在しない (つまり、販売オーダが削除されているか、または仮オーダから製品バリエーションが生成されている場合)。販売オーダに対する参照が存在しない場合、[参照オーダ] フィールド、[参照位置] フィールド、および [代替販売見積] フィールドは空 (値 0) になります。これらのフィールドは、製品バリエーション (組立) (tiapl3500m000) セッションの詳細に表示されます。

注意

製品バリエーションだけでなく、次のデータも削除されます。

- 製品バリエーション構造
- 製品バリエーションと組立ライン間のリンク (製品バリエーション - 組立ライン (tiapl3520m000) セッションに表示)

[ジョブの作成] をクリックすると、現在のセッションがジョブに追加され、バッチモードでセッションが実行されます。

「製品バリエーション」-「購買構成可能品目」

ここでは、購買構成可能品目に関連する次の機能について説明します。

- バリエーションの構成品目の比較

- 製品バリエーション購買価格構造の定義

バリエーションの比較

2つの製品バリエーションを比較して、次のことをチェックできます。

- 構成購買部分組立品の在庫
- 新しく構成された品目をオーダーするのではなく、一致する構成の在庫を使用する可能性

注意

2つの構成品目ですべてのオプションが同じ場合、交換可能と見なすことができます。

製品バリエーションの次の構成品目を比較できます。

- 構成済完成品
- 任意の構成可能な子品目

製品バリエーションの構成品目を比較するには、オプションリスト ID を使用できます。構成可能品目は、オプションセットレベルで比較されます。バリエーションによって作成される2つの構成品目は、オプションリスト ID が同じ場合、交換可能と見なされます。

オプションリスト ID は、次のタイプの処理に使用されます。

- 製造組立品目の処理
- 購買構成品目の処理
- 在庫取引

バリエーション番号とオプションリスト ID

購買構成可能品目の需要と供給の照合は、オプションリスト ID に基づいて行われます。

製造組立完成品の需要と供給の照合は、製品バリエーションに基づいて行われます。例 製造組立完成品の需要は、製品バリエーションが新しい販売オーダーに対して作成されるときに生成されます。このバリエーションのオプションリスト ID は、在庫にある余剰バリエーションと一致します。バリエーション番号が異なるため、組立オーダーがこの需要を満たすために作成されます。

バリエーション番号とオプションリスト ID は、次の処理で使用されます。

- 組立計画の作成 (組立部品所要の計算 (tiapl2221m000))
- 組立オーダーの作成
- 倉庫出庫勧告の生成

製品バリエーション購買価格構造

構成品目の購買価格を設定できます。購買価格は、構成品目のオプションによって異なります。構成処理中にバリエーションの購買価格を計算できます。この計算は、販売価格を計算した後で行えます。バリエーションを更新する場合、販売価格を再計算するよう求められます。

販売価格を再計算するために、構成日が価格リストの確認の参照日として使用されます。販売パッケージの販売パラメータ (tdsls0500m000) セッションで構成日を設定できます。[構成日 (PCS)] は次のいずれかです。

- [オーダー日付]
- [システム日付]
- [納期]

バリエーションのセットの購買価格を計算するには、製品バリエーション購買価格構造の計算 (tipcf5235m000) を使用します。

次のセッションで、現在のバリエーションの購買価格を計算できます。

- 製品バリエーション (tipcf5501m000)
- 製品バリエーション購買価格構造 (tipcf5535m000)

スケジュールの購買価格は一般価格リスト (tipcf4101m000) セッションから取得されます。この価格は価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [購買価格日付タイプ] フィールドで選択された値に基づきます。指定可能な値

- [オーダー日付]
- [システム日付]
- [納期]

重要

購買価格構造は、分析のみに使用されます。

注意

販売価格/購買価格の計算の参照日として異なる日付が使用されているので、スケジュールの価格はバリエーションデータに表示されている価格とは異なる場合があります。

製品構成(PCF)

従来の生産管理システムでは、製品構成が一般的に次のような要素から構成されていました。

- 納期や原価などの、品目データ
- 部品表などの、品目の構造に関するデータ
- 工順などの、作業についてのデータ

このシステムは、製品の製造数が限られている会社向けのシステムと考えてよいでしょう。ただし、完成品のバリエーションを大量に生産する場合、顧客オーダーを受領したときに通常は組立または製造だけを行います。この場合、従来の情報システムでは、製品データの量、複雑度および管理性、そして情報を適時に利用できる必要性に絡んだ問題が生じる可能性があります。

製品バリエーションの受注組立を行う会社ではたいてい製品バリエーションが扱われています。そのため、全バージョンの完成品すべてについて製品構造を事前定義しておくことは不可能となっています。この問題に対する対応策が構成管理です。構成管理によって、構想の巧みなモジュラー製品設計を実現できます。また、情報システムで提供される適切な有効性確認および設計支援機能を用いて、ロジスティック管理レベルを強化できます。

製品構成(PCF) (ページ 19) モジュールでは、1つの製品モデルが作成され、その製品モデルの特徴がすべて定義されます。製品バリエーションは、特徴のオプションを選択することにより定義できます。要件をバリエーションの製品構成に変換するためには、一連の決定ルールおよび制約を用います。これらの制約によって、特定のバージョンで構成要素および作業のうちのどれを使用し、どれを使用しないかが指示されます。

パフォーマンスについての注意

このセッションの設定はシステムパフォーマンスやデータベースの拡張に影響することがあります。詳細は、次の情報を参照してください: プロジェクト管理 (PCS) を伴わない製品構成 (PCF)

コンフィギュレータの概要

このトピックでは、LN における製品構成 (PCF) の仕組みについて簡単に説明します。

製品コンフィギュレータが役立つ理由

会社の競争力は、会社が顧客の要求にいかにか速く応じられるかによって決まる傾向にあります。今日の企業は、顧客固有の製品を標準製品の納期に間に合うように納入できなければなりません。

従来の生産管理システムでは、製品構成が一般的に次のような要素から構成されていました。

- 納期や原価などの、品目データ
- 部品表などの、品目の構造に関するデータ
- 工順などの、作業についてのデータ

このような製品データは、製品の生産数が 1 個または数個に限られている会社向けであると考えられます。ただし、完成品バリエーションの生産数が大量に及ぶ場合は、顧客オーダーを受注した時点ではじめて製品の組立または製造が開始されるのが一般的です。この場合、従来の情報システムでは、製品データの数量、複雑度および管理性に関して問題に遭遇する可能性があります。また、情報を適時に入手できるかどうかも問題含みになるおそれがあります。

受注組立を行う会社ではたいてい製品バリエーションが扱われています。この場合、全バージョンの完成品すべてについて製品構造を事前定義することは不可能です。この問題に対する対応策が構成管理です。構成管理によって、構想の巧みなモジュラー製品設計を実現できます。また、情報システムで提供される適切な有効性確認および設計支援機能を用いて、ロジスティック管理レベルを強化できます。そのようなアプリケーションは、LN では製品構成 (PCF) として提供されています。

製品構成 (PCF) の設定方法、さらにはその利用方法については、以降のセクションで概説します。

製品構成を設定するには

製品構成を設定する前に、品目基準データモジュールで [一般] タイプの品目 (いわゆる一般品目) を定義する必要があります。

一般品目にリンクできる特徴には多様な種類があります。製品特徴は、製品仕様を定義する手順の基盤となります。どの特徴に対しても各種のオプションを定義できます。それらのオプションには、特定の特徴に対する選択肢が反映されます。たとえば、「色」という特徴については赤、黄色、および青といったオプションを定義できます。制約を使用して、ある特定の選択肢を除外することもまた必須にすることもできます。一般品目に対して選択されたオプションの組合せには、製品バリエーションが反映されます。構成可能品目 - 構造 (tipcf3100m100) セッション 1 つで、一般品目の構成データの表示、定義、およびメンテナンスができます。

複数言語サポートを使用することにより、製品の特性特徴をいくつかの言語で定義できます。それぞれの特徴について、1 個以上のオプションを数種の言語で定義できます。オプションが自由に選択されるか、または特定のドメインに結合されるかを定めることができます。

購買および販売価格は、一般品目ごとに定義できます。一般品目に関する販売価格に基づいて、製品バリエーションの販売価格が計算されます。たとえば、一般サブ組立または完成品の一部として一般品目が購買されるときに購買価格が入ります。

製品モデルの定義方法を参照してください。

製品コンフィギュレータを使用するには

製品構成を設定する際は、製品の全特徴に対応するオプションを選択することにより、顧客に合った製品構成を実現できます。顧客要件の解釈をもとに製品バリエーションが生成されます。プロセス

は、制約と呼ばれる一連の決定規則で管理できます。制約によって、特定のバージョンで構成要素および作業の使用が許可されるかどうかが表示されます。

次の表に示すように、製品コンフィギュレータはLN内のいくつかの場所からトリガすることができます。製品バリエーションは、製品バリエーションの構成場所に応じた参照タイプ (製品バリエーション (tipcf5501m000) セッションで表示可能) を受け取ります。

コンフィギュレータがトリガされる場所	コンフィギュレータがトリガされるセッション	参照タイプ
製造の製品構成 (PCF)	■ 製品バリエーション (tipcf5501m000) [標準バリエーション]	
製造のプロジェクト管理 (PCS)	■ 製品バリエーション (プロジェクト) 構造の生成 (tipcs2220m000)	製品バリエーションをプロジェクトに適用するかそれとも予算に適用するかに応じて、[プロジェクト (PCS)] または [予算]
販売の販売見積ライン	■ 販売見積概要 (tdsls1500m000)	[販売見積]
販売の販売見積ライン	■ 販売オーダー (tdsls4100m000)	[販売オーダー]
プロジェクトのプロジェクト技術計算 (PTC)	■ 要素予算 (材料) (tpptc1510m000) ■ 要素予算 (材料) (tpptc1510m000)	[プロジェクト]
プロジェクトの所要量計画	■ 計画 PRP 倉庫オーダー (tppss6115m000)	[プロジェクト]

詳細は、次の情報を参照してください:

- 販売見積での製品モデルの使用方法
- 販売オーダーでの製品モデルの使用方法

(プロジェクト) 構造を生成するには

製品バリエーションを作成したら、その製品バリエーションに基づいて製品の構造を生成する必要があります。製品バリエーションがどこで構成されたかに応じて、次のいずれかのセッションで一般製品構造が生成されます。

- 販売見積 (予算 PCS) 構造の生成 (tdsls1201m100)
- 販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000)
- 製品バリエーション (プロジェクト) 構造の生成 (tipcs2220m000)

構造を構成するデータは、以下に関するものが一般的です。

- 製品特徴
- 製品オプション

- 製品制約
- 一般品目データ
- 一般部品表
- 一般工順

製品バリエーションのベースとなる一般品目のオーダー方針が [Yes] である場合、PCS プロジェクトを生成しておかないとプロジェクト構造を生成できません。一般品目のオーダー方針が [No] である場合、プロジェクトは必ずしも必要ありません。

CPQ コンフィギュレータの設定

CPQ コンフィギュレータは、LNに統合される対話式コンフィギュレータです。製造処理を実施するために必要な構成情報は、LN に保存されます。

CPQ コンフィギュレータを設定するには、次のステップを実行します。

1. 導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000)
この対話式コンフィギュレータの機能を有効化するには、[コンフィギュレータ統合 (CPQ)] チェックボックスをオンにします。
2. CPQ コンフィギュレータプロファイル (tipcf0120m000)
CPQ コンフィギュレータに使用するプロファイルを指定します。プロファイルでは、言語とコンフィギュレータのモデルの表示が定義されます。
3. CPQ コンフィギュレータユーザプロファイル (tipcf0125m000)
 - ユーザプロファイルの一部としてデフォルトのプロファイルを指定します。ユーザプロファイルはCPQ コンフィギュレータ設定 (tipcf0111m000) セッションで定義されたプロファイルが無効化します。
 - 販売オーダーの構成を開始する前に、ユーザの確認がチェックされます。CPQ コンフィギュレータの開始時に、デフォルトで、ユーザプロファイルで定義されたプロファイルまたは品目の設定が実行されます。権限のあるユーザは、CPQ コンフィギュレータプロファイル (tipcf0120m000) セッションで定義されたプロファイルのリストから異なるプロファイルを選択することで、デフォルトのプロファイルが無効化することができます。CPQ コンフィギュレータを開始するには、デフォルトのプロファイルまたはマニュアルで変更されたプロファイルのいずれかを使用します。
4. CPQ コンフィギュレータ設定 (tipcf0111m000)
会社、品目グループ、または品目の CPQ コンフィギュレータ設定を有効化するには、[CPQ コンフィギュレータで構成] チェックボックスをオンにします。[通貨]、[アプリケーション URL] および [プロファイル] などの [固有の設定] を設定できます。LN で定義された設定が CPQ コンフィギュレータの設定と同期している必要があることは、非常に重要です。

[CPQ コンフィギュレータ統合] を使用して品目を構成するには、次のステップを実行します。

1. 販売オーダーライン (tdsls4101m000)
販売オーダーラインを作成し、構成可能品目を選択して製品の構成を確認します。CPQ コンフィギュレータが新しい Web ユーザインタフェースのページで開始され、このコンフィギュレータでモデル用に定義されたオプションが表示されます。
販売パッケージの販売オーダーライン以外では、下記のセッションで製品バリエーションを構成することができます。
 - 販売見積ライン (tdsls1501m000)
 - 製品バリエーション (tipcf5501m000)
 - 製品バリエーション (tipcf5600m000)
 - 要素予算 (材料) (tpptc1510m000)
 - 活動予算 (材料) (tpptc2110m000)
 - 見積ライン (tpest2100m000)
 - 計画 PRP 倉庫オーダー (tppss6815m000)
2. CPQ コンフィギュレータ Web UI
構成中および構成後に、製品特徴、オプション、オプションのイメージ、および CPQ コンフィギュレータ で定義されたモデルの最終イメージを表示できます。
 - 最終製品を構成するために必要なオプションを選択できます。構成を完了すると、品目の最終価格が計算されます。
 - データを保存し、コンフィギュレータを閉じると、製品バリエーションが作成されます。選択した特徴とオプションが LN で使用不可の場合、構成の完了後にそれらが作成されます。
注意: 選択したオプションと特徴は LN で作成されます。CPQ コンフィギュレータ で作成されたが、モデル化された品目で選択されていないオプションは統合されません。
3. 製品バリエーション (tipcf5501m000)
[CPQ コンフィギュレータ状況] フィールドの製品バリエーションの状況を見直します。[CPQ コンフィギュレータバリエーション] フィールドを見直しするには、CPQ コンフィギュレータを使用して作成されたバリエーションのチェックボックスがオンになっている必要があります。

注意

販売価格および数量は CPQ コンフィギュレータ により計算されます。

CPQ コンフィギュレータで作成された製品バリエーション、製品バリエーションの特徴、オプション、オプションセット (製品構成レベル) は、LN に保管されます。製品バリエーションは、構成、再構成、修正または削除できます。製品バリエーションの作成後、必要に応じて標準の販売および製造処理を継続できます。

プロジェクト

特定の顧客オーダーに対して特別に実行される、製造アクションと購買アクションの集まり。プロジェクトは、それらの品目の製造を計画および調整ために開始されます。

標準受注生産の場合、プロジェクトは品目と顧客オーダーをリンクするためだけに使用します。それ以外の場合、プロジェクトには次の項目を含むことができます。

- カスタマイズ品目データ (部品表および工順)
- プロジェクト計画 (活動計画)

予算は特別なタイプのプロジェクトです。予算は計画と見積に使用されます。製造の実行には使用されません。

会社

ロジスティック取引または会計取引を実行する作業環境。すべての取引データは、特定の会社のデータベースに保存されます。

管理するデータのタイプによって、次の会社に分けられます。

- ロジスティック会社
- 財務会社
- ロジスティック会社であり財務会社でもある会社

複数サイト構造では、各種データベーステーブルの内いくつかを特定の会社専用として、それ以外のデータベーステーブルを他の会社と共有することができます。

一般部品表

製品バリエーションを構成可能な、一般品目ごとの構成要素のセット。一般部品表は、製品バリエーションの構成および生成中に作成されるバリエーション部品表の基準を形成します。部品表ライン (構成要素) ごとに、制約規則が適用されます。

製品バリエント構造

複数の構成可能品目/設計モジュールに関連する構成可能完成品の 1 つで構成される製品バリエントの構造

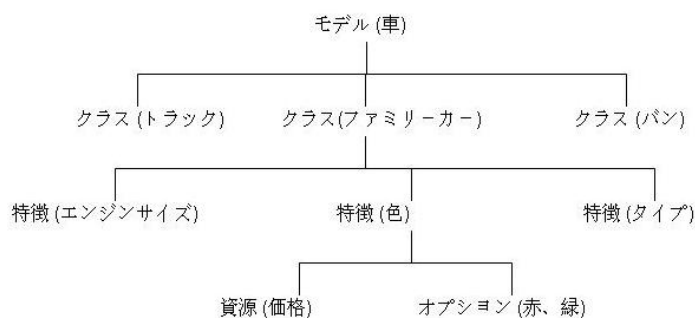
構成可能サブ品目もさらに固有の構成可能サブ品目/設計モジュールを持つことができます。構成可能品目は、製品および製品の半組立品です。設計モジュールは組立品目に使用され、電気系統など、独立した製品を構成しない論理単位です。製品バリエント構造は、LN によって生成され、オプションに応じて部品表の一部を保持します。

特徴

構成クラスの特徴。特定の値を保持するどの種類のプロパティでも構いません。特徴の 1 例として色があります。

クラス特徴は次のように設定できます。

- 必須
- 永続的 (保存可能)
- 個人用 (構成モデルの外部では使用できない)
- 有効 (使用中)
- 明示的 (派生元)



注意

クラスには、特徴をいくつでもリンクできます。特徴にリンクできるのは、1つのオプションのみです。

特徴

結合した後に構成可能品目にリンクされて製品バリエントを構成する特徴。特徴の 1 例として色があります。

オプション

各製品特徴のそれぞれのオプションは、製品の特徴を指定します。例として、赤は、特徴色のオプションになります。

タイムフェンス

品目の供給計画と計画オーダの凍結が終了する期限

タイムフェンスは、シミュレーションを実行した日からの作業時間数として表されます。

一般に、企業計画は、タイムフェンス内では供給計画や計画オーダを再生成しません。ただし、マスタ計画シミュレーションまたはオーダシミュレーションを実行するときはこの限りではありません。

タイムフェンスは、次のような事態を防ぐための機能です。

- 工程レベルですでに開始しているオーダに障害が発生すること
- 計画オーダを過去の開始日で生成してしまうこと (すなわち、遅延したオーダ)

通常、品目の製造工程のリードタイムは、タイムフェンスと矛盾しない値になります。

一般品目

複数の製品バリエーションに存在する品目。一般品目に対して製造活動を実行する前に、品目を設定して、必要な製品バリエーションを決定する必要があります。

例

一般品目: 電気ドリル

オプション:

- 3つの電源 (バッテリー、12 V または 220 V)
- 2色 (青、グレー)

合計 6 つの製品バリエーションをこれらのオプションで製造できます。

有効化コード

有効化構成品目に関する差異をモデル化するために使用する、販売オーダーラインやプロジェクト成果物ラインなどの参照番号

制約

アクションをチェックまたは制限する方法、あるいはアクションの回避や実行を強制する方法

製品構成モジュールでは、制約は製品バリエーションの定義中に実行可能と考えられるあらゆる決定ルールまたは計算のことです。制約は、製品特徴、一般部品表、工順、価格リスト、および品目データの製品モデルで使用できます。制約エディタを使用して制約を定義できます。

特に、制約によってオプションの特定の組合せがどの条件下で製品特徴に関して受入可能であるか、必須であるか、または受入不可であることを示すことができます。部品表のどの構成要素および作業を含めるか、また排除する必要があるか、さらに製品バリエーションの購買価格構造または販売価格構造はどのようなものかなどを示すことができます。

製品分類モジュールでは、制約は 1 行以上の制約行で構成されています。この制約行は、特定の戻り値や計算結果が品目分類で分類コードに取り込まれる条件を定義しています。

制約

バリエーションの製品構造へ顧客の所要量を変換する決定ルール (制約)。これらの制約は、特定の製品バリエーションで使用される構成要素および作業を示します。

工順

品目を製造するために必要な作業の順序

作業ごとに、段取時間やサイクル時間に関する情報に加え、タスク、機械、ワークセンタが指定されます。

製品バリエーション

構成可能品目の一意の構成。バリエーションは構成処理に由来し、特徴オプション、構成要素、作業などの情報を含みます。

例

構成可能品目: 電気ドリル

オプション:

- 3つの電源 (電池、12 V または 220 V)
- 2色 (青、灰)

これらのオプションから合計 6 つの製品バリエーションが生じます。

オプションセット

製品構造内の構成可能品目に関する一連の製品特徴およびオプションを識別します。

構成可能品目

特徴およびオプションを選択できる品目であり、この品目に対するすべての活動を実行できるように事前に構成しておく必要があります。構成可能品目が一般品目の場合は、構成後に新しい品目が作成されます。製造品目または購買品目の場合は、品目コードとオプションリスト ID で構成が識別されます。

- デフォルト供給ソースが [組立] 品目および [一般] 品目に設定されている [製造] 品目は、常に構成可能品目になります。
- 購買スケジュールが使用中の [購買] 品目は、場合によっては構成可能品目になることもあります。
- 構成可能 [購買] 品目は、組立管理でのみ使用できます。

設計モジュール

組立計画におけるシステム、すなわち通常は個別の物理単位として製造されることのない組立部品の論理単位

たとえば、自動車の電気系統は、電気系統に必要とされるあらゆる部品の論理単位です。ただし、これは個別の物理単位として製造されるわけではなく、ダッシュボードやドアなどに組み込まれます。

設計モジュールは、設計および計画専用です。工順、組立ライン、オプションなどはありません。部品表 (BOM) では、設計モジュールは部品表の構成不能セクションの上位階層になります。

組立部品

組立ラインで使用される構成要素

組立部品は、構成と企業計画とのリンクを形成します。構成は組立部品の所要量を生成し、企業計画は品目の製造または購買を計画します。

部品表 (BOM)

製造品目で使用されるすべての部品、原料、および半組立品のリスト。このリストには、品目の製造に必要な各部品の数量が示されています。部品表は、製造品目のシングルレベルの製品構造を示します。

主品目

製造オーダーの最終結果

主品目は、完成品 (倉庫への納入の場合) に変更されるか、そのまま直接顧客に納入されます。

マスタ会社

複数会社構造の場合、マスタ会社を使用することで、すべての会社のデータを同期させます。マスタ会社で入力または生成されたデータ (たとえば、ライン構造など) を他の会社複製することができます。マスタ会社は、組立ラインのいずれかの会社、または個別の会社のどちらにでも設定することができます。

製品バリエーション識別コード

製品バリエーションの一意の識別子

製品バリエーションコードにより構成可能品目のさまざまなバリエーションを生成できます。特に、顧客がオプションやその価格についての情報を確約せずに入手したい場合に使用することができます。製品モデルの導入ステージでは、システムテストの実行にも使用されます。

セグメントスケジュール

組立部品がいつ必要になるのかを示すスケジュール。セグメントスケジュールは、組立オーダーのオフライン日、および組立部品が必要とされるセグメントに基づいて、部品をいつラインに納入しなければならないかを示します。セグメントスケジュールは、処理量が多く、計算のパフォーマンスがクリティカルな場合に、組立部品必要の概略計算に使用されます。

CPQ コンフィギュレータ

LNに統合されて品目を構成するアプリケーションです。この統合は、Webユーザインタフェースの一部としてのみ実行できます。

次を参照してください: 価格見積りの構成

契約成果物

契約成果物とは、契約の結果として生成または購入される有形または無形の品目です。

索引

生成
製品バリエーション構造, 15
プロジェクト, 25
会社, 25
一般部品表, 25
製品バリエーション構造, 26
消去, 16
生成, 15
特徴, 26, 26
オプション, 26
タイムフェンス, 27
一般品目, 27
有効化コード, 27
制約, 27, 27
工順, 28
消去
製品バリエーション構造, 16
PCS
プロジェクトなし, 13
製品バリエーション, 28
「製品バリエーション」-「購買構成可能品目」
バリエーションの比較, 16
製品バリエーション購買価格構造, 16
製品構成(PCF), 19
オプションセット, 28
構成可能品目, 28
設計モジュール, 28
組立部品, 29
部品表 (BOM), 29
主品目, 29
マスタ会社, 29
製品バリエーション識別コード, 29
セグメントスケジュール, 29
CPQ コンフィギュレータ, 29
設定, 23
製品バリエーションの構成, 7
製品バリエーションの生成, 7
プロジェクトなし
pcs, 13
一般品目コンフィギュレータ
一般品目コンフィギュレータ, 13
PCM コンフィギュレータ
CPQ コンフィギュレータ, 23
契約成果物, 29
